

事 務 記 録

| | | | |
|-----|---|-----|------------|
| 議 題 | 令和4年度第1回三条市公立大学法人評価委員会 | | |
| 日 時 | 令和4年7月14日(木) 午前10時～午前11時40分 | 場 所 | 三条庁舎 第一会議室 |
| 出席者 | <p>評価委員：勝見悦行委員、清水希容子委員、清水善廣委員、山口隆司委員、和田 裕委員</p> <p>説明員：公立大学法人三条市立大学 アハメド シャハリアル理事長、坂田事務局長、小林総務課長、草野主査、杉崎主査</p> <p>事務局：笹川総務部長、小林行政課長、栗山課長補佐、星野行政課庶務係長</p> | | |
| 概 要 | <p>次第1 開会</p> <p>次第2 笹川総務部長挨拶 出席者の紹介</p> <p>次第3 委員長の互選〔勝見委員推薦により和田委員が就任〕</p> <p>次第4 業務実績評価（年度評価）実施要領の承認〔事務局案を承認〕</p> <p>次第5 令和3年度業務実績報告及び質疑応答</p> <p>（シャハリアル理事長）公立大学法人三条市立大学の理事長を務めさせていただいているアハメド・シャハリアルである。</p> <p>これから令和3年度業務実績報告について説明するが、私から概要を説明した後、詳細は事務局長から説明させていただくのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>開学年度の令和3年度から4年間を文部科学省では完成年度と呼んでいるが、この間に大学を軌道に乗せるため文部科学省に認可申請をした内容について、我々はそれらを確実に実施する必要があり、その点に十分配慮しながら1年間着実に運営して参った。</p> <p>教育に関してはほぼ予定どおり教育課程を実施してきた。令和4年度に開始する産学連携実習に向けて企業の開拓、企業での実習内容、シラバスについて十分な調整を行ってきた。</p> <p>産学連携の受入企業について、認可時は92社から同意を得ていたが、協力企業数が増えて現在121社となっている。</p> <p>研究に関しては、教員自らの研究が基本であったが、各種助成金等の外部資金を獲得するための活動をしており、それぞれ成果を上げている。</p> <p>また、地域企業の皆様と教員の研究をマッチングさせるため、研究内容の紹介を兼ねて三条商工会議所と連携して「知的ものづくりセミナー」を4回開催した。これは、今年度も継続して開催している。</p> <p>こういった活動を通じて、大学と地域の方々、地域の企業が連携を図っているという、その始まりが見えてきているといったところである。</p> <p>地域貢献に関しては、本学のキャリアセンターを中心に、企業との</p> | | |

連携を図るための基盤を固めてきた。地域小中高学生の見学は昨年度1,500人の児童生徒を受け入れた。本学学生も地域行事や様々なイベントに参加し、地域との交流を図った。

業務運営に関しては、入学生の確保が大きな課題ではあったが、様々な広報活動を行い、今年度は昨年度を少し下回ったが5倍の志願倍率を確保できた。結果として今年度は82人の入学生を迎えることができた。

また、日頃我々が企業に対して様々な活動をしている中で、今後学生の就職に結び付けたいと考えて活動しており、株式会社ゴットハンドから機器や資金、一般財団法人高波龍風記念財団、株式会社高儀から給付型の奨学金を学生に給付するための財源を寄附いただき、株式会社 snowpeak からは寄附講座と給付型の奨学金のための財源など多くの申し出を受けて寄附金を頂戴したところである。

これらのことから、令和3年度については、おおむね計画どおり順調に成果を上げたものと考えているところである。

私からの概要説明は以上である。

(坂田事務局長) 私は、公立大学法人三条市立大学の事務局長を務めさせていただいている坂田であるが、私から令和3年度業務実績報告をさせていただく。

三条市立大学で自己評価を行った内容が記載されている評価シートをご覧ください。

始めに、教育研究等の質の向上に関する事項の1、教育に関する目標を達成するための措置について

(1)、専門教育の充実、ア、複合的な領域の教育について、文部科学省から認可を受けたカリキュラムを着実に実施してきたことからB評価。イ、産学連携実習の充実は、受入れ企業が121社とかなり拡充されたことからA評価。ウ、時代の変化への柔軟な対応は、公立大学協会等色々な機関からの情報を積極的に収集し、必要なものについては随時反映させていったことからB評価

(2)、入学者の確保について、オープンキャンパスの開催、説明会の開催、ホームページ等による情報発信というところについて着実に実施したことからB評価

(3)、学生支援は、オフィスアワーや奨学金の情報提供等を適切に行っていたことからB評価

(4)、社会人教育の充実は、先ほども説明したが知的ものづくりセミナーを開催し市民の知的好奇心の高揚を図ったり、市内小中学生を対象にサイエンスフェスタを開催するなど、いろいろな取組を強化したことからA評価

(5)、高度教育への対応は、助成金獲得については成果もあったが、この点についてはB評価とした。

次に、2、研究に関する目標を達成するための措置について

(1)、地域発展に資する研究の推進は、学内で企業調査を実施したりホームページで教員情報を発信するといった取組を行ってきたことから、B評価

(2)、地域企業等と連携した研究の実施は、先ほどの知的ものづくりセミナーを再掲させてもらったので同じ評価とした。

(3)、外部資金の獲得は、研究支援を目的とした財団助成金等の情報を共有し申請を取りまとめて助成金を幾つか獲得しているが、ここはB評価とした。

次に、3、地域貢献に関する目標を達成するための措置について

(1)、地域企業との連携推進は、概ね順調に進めてきたことからB評価とした。また、先ほどの知的ものづくりセミナーの再掲でもあるので、その点についてはA評価とした。

(2)、地域の学校等との連携活動の推進はB評価としたが、先ほどの知的ものづくりセミナーにはA評価、その他イベントの周知により学生消防隊の結成や、三条マルシェへの出店、学びのマルシェの講師参加といった学生の活動が促されたことから、この点はA評価とした。

次に、4、国際交流に関する目標を達成するための措置について

(1)、留学生等の受入れはもう少し先の話になるため、現段階では文部科学省事業のオンライン説明会に出席し情報収集を行ったことからB評価

(2)、国外大学等との連携は、同じくB評価とした。

次に、業務運営の改善及び効率化に関する事項、1、運営体制の改善に関する目標を達成するための措置については、学内での意識付けや研修会の実施などを行ったことからB評価

2、教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置については、教育研究組織を適切に運用し、教員の職位の見直しや担当科目の見直しを必要に応じて行ったことから、一般的に順調に行ったということでB評価

3、人事の適正化に関する目標を達成するための措置については、再掲のFD・SD委員会や教員評価制度の要綱を制定し、順調に進んでいることからB評価

4、事務の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置については、FD・SD委員会は再掲、開学初年度のためいろいろマニュアル等の整備を着実に実施したことからB評価

次に、財務内容の改善に関する事項、1、自己収入の確保に関する目標を達成するための措置について

(1)、学生納付金の確保は、先ほどの留学生確保に向けた取り組みを全て再掲としているためB評価

(2)、外部研究資金等の獲得促進は、設備充実や給付型奨学金等のため多くの企業から寄附金を頂戴したことでA評価

2、経費の節減に関する目標を達成するための措置について、職員

の適正人員を検討しながら運用してきたこと、無駄の排除などにより経費節減を図ってきたことから B 評価

3、資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置については、適切に実施してきたことから B 評価

次に、自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項、1、自己点検・評価に関する目標を達成するための措置については、適切に実施してきたことから B 評価

2、情報公開の推進に関する目標を達成するための措置についても同様に B 評価

最後に、その他業務運営に関する事項、1、施設設備の整備、活用に関する目標を達成するための措置については、いろいろな機器を年次的に導入する計画に基づき適切に導入してきたことから B 評価

2、安全管理に関する目標を達成するための措置については、学内の学生に対し安全管理を適切に行ったことから B 評価

3、法令順守等に関する目標を達成するための措置については、規程の整備や改正等を適切に行ったことから B 評価

続いて、中期計画成果指標の達成状況をご覧いただきたい。

中期計画の成果指標をまとめたものである。左側に目標値、令和3年度の赤字部分が今年度評価になる。網掛け部分は完成年度以降や令和4年度以降の評価となるため令和3年度は参考値として掲載した。

教育指標は、志願倍率から産学連携実習受入れ承諾人数まで、それぞれ目標値を上回っていることから A 評価。研究指標は完成年度以降の評価である。地域貢献指標は、市民公開講座や大学開放イベントなどの開催件数は目標値2回以上のところ5回開催したことから A 評価。国際交流に関する指標は最終年度が目標値となる。業務運営の改善及び効率化は、FD・SD に関する取組件数4件ということで A 評価となった。

説明は以上である。

(和田委員長) ただいまの大学側の説明に対する質問がある方は挙手を願う。

(清水(善)委員) A 評価については正しく自己評価していると思う。初年度は良い結果になっているのではないかと感じている。特に121社の受入れ企業についてはかなり努力されたのではないかと感じている。開学間もない忙しい時期に教員が自らの専門分野をリレー形式で市民に説明している、こういうことが計画的に進んでいるということは、更にはいろいろな分野に広がっていくと感じている。

小中学生のサイエンスフェスタは市民に受け入れられる大学、これからイノベーションを作る小中学生にこの大学の特徴を出しており、非常に良い結果だと思う。分かり易い活動だったと思う。121社の協力を集めること、市民に専門分野をして示していくというのは、これを中心に行っていけば良い大学になると思う。この評価シートとは関

係ないが、大学のパンフレットは非常によくできている。大学の特徴である産学連携については体制が整ったと思うので、これから共同研究などが増えていくのかなと期待を感じさせるような結果だった。

(勝見委員) 地域貢献をしていて地元紙に掲載されたりしているので大学のやっていることを三条市民はよく分かっている。高波龍風記念財団、高儀、snowpeak と、奨学金についてはかなり努力されたと思う。三条市の学生は4人だけなので、三条市、燕市の学生が増えることを期待している。

(山口委員) 受入企業の121社について、企業の質はどのように評価しているか。参加というか協力しますという感じなのか。安全を含めて、こういったことを満たしているなどの基準があって121社だと思っているが。企業によっては「学習」ではなく「作業」になることも懸念されるが、そういったところはどのように工夫しているか。

(シャハリアル理事長) 我々が目的としている学びを得ることができるか、学修の質が文部科学省でも話題になった。初年度から企業選びは文部科学省との話し合いの中で慎重に基準を決めて、その基準を満たさない企業はお断りした。それは産学連携実習先としての話で、企業との連携は別の話である。基準を満たしている企業が徐々に増えているので、これは一定の数字をクリアしたものと思っていたら結構である。

(山口委員) 寄附講座が評価書面には出てきていないが、分類的には「学生へのサービス」になるのか、それとも産学連携の中に入るのか。寄附講座の中身が研究に向けてのものなのか、学生の教育に向けてのものなのか、とても良いことなのでどこかに入れたほうが良いと思う。

(シャハリアル理事長) 寄附講座はこれから設立するものでプログラムを策定している最中である。運営するためのコーディネーターの配置や作業があって、ようやく準備が整ったところである。寄附講座に入る学生は3年生と4年生なので、実施は来年度からになる。寄附を受けたことで締結のサインをしたところである。

(山口委員) 準備を進めているとか、締結したなどを記載しても良いと思う。2-(3)で、「教員も財団助成金等の」というのは当初計画にはなかったが、それが実際にあったというのは、一生懸命に頑張ったということなのにB評価になっている。件数は何件だったか。

(坂田事務局長) 成果指標の2-8、競争的外部資金申請件数にあるように16件である。

(山口委員) 完成年度以降、毎年7件を目標としているのに既に16件というのはかなり御苦労されたと思うが。

(坂田事務局長) 科学研究費は2件、その他は助成金である。

(シャハリアル理事長) 初年度の教員数は11人で、11人に対して2件は大きいと思っている。

(清水(希)委員) 志願者も多く非常に人気であり、尽力されたと思う。

三条市内の学生が少なかったというのは意外だった。

1-(1)、121社ということで、企業規模について、パール金属、高儀、snowpeakのような大手企業から零細企業と言われる企業までなのか、業種はどのようなかを教えていただきたい。

また、1-(4)の知的ものづくりセミナーは具体的にどの様なことをやっているのか、イメージを明確化するために教えてほしい。

1-(3)、学生支援について、with コロナということで苦労があったと思うのでその辺りを聞かせてほしい。

3-(2)、三条マルシェは非常に魅力的なイベントだが、学びのマルシェは三条マルシェと同じものなのか。

(シャハリアル理事長) 産学連携に参加する企業規模は幾つかの基準があるが、まず従業員数20人以上であること。次に、経験学習先として産学連携を計画しているので、その企業がものづくりにおいて企画や開発を行っているか、技術開発か、製造業か、この全て若しくはどれか2つ該当しているか、そういった力のある企業だけを対象にしている。

知的ものづくりセミナーについてだが、大学教員の構成は工学部と社会学の経営学を融合しているため工学領域の中でも垣根のない工学なので、様々な分野の教員がいる。ものづくりにおいては特定領域より複合領域の教育や研究が必要不可欠であるため、このセミナーはそういったものをどの様に組み合わせていくか、あるいはイノベーションにつなげていくかという基本的なセミナーであり、初年度から継続して行っているが、月1回2人の研究者がそれぞれの専門性やこれまでの業績を自己紹介に近い状態で行っている。受講者は70人程、主に地域企業の方々がメインである。今年度からはこれをもう少し具体的にするため、学長主導のレクチャーシリーズを始めた。企業のマインド性を変えるための活動になるが、例えば顧客に対して直接的なアプローチ、こういった概念が取り入れられているかなど最近の現状を地域や企業の方々に伝えるための主にワークショップ型セミナーである。この2つを組み合わせるセミナーシリーズを実施している。

With コロナについて、我々の学びは対面でなければその魅力を味わうことができないため、数多くの検査をしてコロナ対策を取り、学生の意識を高めながらずっと対面式で実施してきた。おかげで学内では一人も感染者は出なかった。

学びのマルシェは小中学生に対して学生が講師になり宿題を手伝ったりして、塾に通えない子どもたちへの学びの支援を行った。

(清水(善)委員) 学長の特別研究費について、学長サイドで認めているという面白いアイデアだと思うが、こういったことに使っているのか。

(シャハリアル理事長) 少し先の話になるが、本大学での研究の方向性に関するトピックに対して特別研究費を使うことを計画しており、こ

これは市との約束でもあり、文部科学省にも提出済みである。

その前段階として、昨年度から地域企業の潜在的なサイエンス&テクノロジー、科学がどれだけ企業の中で使われているか、物事を科学的に考えているか。それから、企業の表面的なことはホームページで確認できるが、技術的な潜在能力について、例えばどういった人材が必要なのか、大学卒がどのくらいいるのか、知的な労働者がどのくらいいるのか、S&Tサーベイと称して去年から実施しているが、特別研究費は今この研究に使用しているところである。後にはデータによりどの様な企業とコラボできるか、どういったものが開発できるかなどが見えてくるので、そこに対してもう少し充填させたいと考えており、そういった目的で使用することを考えている。

(清水(善)委員) 燕三条地域であれば伝統的なイノベーションが起きるのではないかと考えており、さらに破壊的なイノベーションが伝統的なイノベーションと競うような形で、大学が中心となり学生がそれを起こす、そういったことが教育につながれば良いと思っている。特別研究費の使い方に期待している。

(和田委員長) 特別研究費、教員の研究費は幾らか。

(シャハリアル理事長) 初年度の特別研究費は40万円、教員研究費は50万円であるが、そのほかに教員は外部資金を獲得している。

(和田委員長) 先ほどのコロナの件で遠隔授業の話が出たが、遠隔授業は実施しなかったのか。

(シャハリアル理事長) 遠隔授業は実施していない。

(和田委員長) 素晴らしい。これだけコロナが流行している中で遠隔授業をしなかったというのは本当に特筆すべきものである。

(シャハリアル理事長) 幸いにも、学生数が少なくキャンパスが広がったこともあり、運が良かったと思う。

(和田委員長) 遠隔授業は学生の不満が溜まりやすいが、それを乗り切ったのは素晴らしいと思う。そういった対応をどこかの項目に入れても良いと思う。

教員の外部資金獲得について、リサーチアドミニストレーターのポジションを配置しているのか。

(シャハリアル理事長) まだ専門の方の設置はしていないが、今年に入ってから設置した。

(和田委員長) そういったところも項目に入れても良いのではないか。

(シャハリアル理事長) 評価対象は令和3年度事業である。

(和田委員長) 教員の評価制度はあるのか。また、教員からの反対意見等はなかったか。

(シャハリアル理事長) 評価制度は策定した。教員からの反対意見はなかった。教員も良い大学にしたいという気持ちがあるから、志が高いのだと思う。

(和田委員長) 自己評価、自己点検は大切である。

(シャハリアル理事長) 今のところ全ての教員が評価制度について良い方向での意見はあるが、反対意見はない。

(和田委員長) 長期的な修繕費計画について、いずれ老朽化するわけで減価償却も絡んでくると思うが、そういったことが触れられていないが、そういった計画は策定しているか。

(坂田事務局長) 建物は三条市の持ち物ではあるが、将来計画は大学で検討する必要がある。施設が新しいことから、まずは備品の交換時期等を検討していかなければならないと思うが、施設維持のための点検についてはしっかりと行っていく。

(シャハリアル理事長) 積立計画はあるが完成年度以降の実施となっているため、今はまだ行っていない。

(和田委員長) 外部評価機関は決まっているのか。また、準備は始めているのか。

(坂田事務局長) 令和7年に1回評価のため、まだ決めてはいない。公益財団法人大学基準協会であったり、一般社団法人公立大学協会では新しい評価機関を作っているの、どこにしていけるかはこれから決めていく段階である。

(和田委員長) 自己点検評価体制を整備するとある。

(シャハリアル理事長) 大学の中に委員会を設置した。

(坂田事務局長) 大学外部評価は7年に1回のため、委員会自体は設置したが活動はまだ行っていない。

(和田委員長) 評価の仕方が変わってくるので、外部評価先を決めたほうが良いと思う。

学生に対する安全教育について、機械を使うことが多いと思うが現場での安全教育はしっかりとしているのか。

(シャハリアル理事長) 産学連携実習先では、1年生はまだ機械に触れることはないので企業の安全に関する講義科目で安全に対する意識を高めて、2年生でハンズオン実習をクリアしないと産学実習連携には行けないことになっている。そこはかなり厳しくやっており、理論とハンズオンの組合せで行っている。

(和田委員長) ハラスメントや苦情について、ハラスメント委員会などの訴える場所の整備はどの様になっているか。

(坂田事務局長) ハラスメントは、ハラスメント委員会を設けて研修を行い、その窓口については教職員や学生に周知を行ったところである。

(和田委員長) 訴えがあった場合、どの様に処理するかのマニュアルはあるか。

(シャハリアル理事長) ある。

(和田委員長) 次年度以降は数値データや委員会等の組織をできる限り提出いただきたい。そういった資料がないと把握しにくい。もしそういった資料が既にあるなら、基礎データとして提出いただけると判断

しやすい。

(勝見委員) 産学連携先などでの怪我に対する保険などはどうなっているか。

(坂田事務局長) 学生保険というものがあり、怪我に対する保険と賠償保険に加入している。

(和田委員長) 女子学生もいるので、髪が機械に挟まれたり、巻き込まれたりといったケースも考えられるので気を付けていただきたい。

他に質問はないか。

—なし—大学退席—

次第6 意見交換

(和田委員長) これから意見交換を行う。

先ほどの質疑内容を踏まえて、評価シートの順に委員各位の意見を聞いていくので、評価内容に対して意見等があれば発言していただきたい。

また、大学側作成の言い回しや文言について、市民に公表する大事な資料となるため、「なにをもってこうなった」などが詳しく記載されていないものもあるので、言葉遣いも注意して確認いただきたい。結果的に評価委員の質も問われることになるため、よろしくお願ひしたい。

教育研究等の質の向上に関する事項、1、教育に関する目標を達成するための措置、(1)、専門教育の充実、ア、複合的な領域の教育について、3点全てBでよいか。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、イ、産学連携実習の充実について、1点目は受入れ企業121社が目標値より高くなっているということでA評定、他はB評定で良いか。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、ウ、時代の変化への柔軟な対応について、計画には「外部有識者へのヒアリングや外部団体への訪問等により情報を収集し、教育課程や」とあるが、実績は「公立大学協会のメーリングリスト等を活用し、他大学の情報を積極的に収集し」となっていて、外部有識者の情報収集ができていないし、資料での情報収集で直接話を聞くヒアリングではないようだが、B評定で良いか。しかし、C判定では厳しくなってしまう。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、(2)、入学者の確保について、十分に入学者を確保していることから特に問題ないと思うが、A評定にしないで良いか。

(山口委員) もう少し県内学生を増やしてほしい。県内学生は82人中42人だけ、5割が他県で良いのか、悪いのか。

(和田委員長) 知名度が上がってくると人気も出て地元学生が入りにくくなってしまふこともあり、ある意味「良い大学」になってしまう。

地元の志願者を増やす努力が必要だと思う。

(清水(希)委員) 地域外からの学生でも将来地域内に就職することを目指すのだと思う。無理にその方向に持っていきのはいけないと思うが、地域内で就職をしてもらうようなこともやらなければならない。大学としては、インターンシップや実習を実施していくことで自ずと地元が分かり、地元就職する確率が高くなると考えていけばいいのではないかと思う。

(和田委員長) 次に、(3)、学生支援について、学生アンケートの結果がフィードバックされているか、あるいは不満や要望に対する回答があったのかが気になるころではある。4点B評定で良いか。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、(4)、社会人教育の充実について、それぞれA評定、B評定で良いか。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、(5)、高度教育への対応について、中期計画で「近隣大学大学院や海外大学等との連携の可能性や手法を調査研究する」、計画で「卒業後に進学を希望する学生に対応するため」とあるが、まだ1年生しか在学していないので、そこまで意識が行かないのではないかと思う。この段階ではB評定で良いと思う。

(清水(希)委員) 内容には全く問題ないが文言について、「他大学からの入学枠は設けていないことを確認した」とあるが、今後のことは記載しないことになっているのか。例えば「今後も調査研究を行う」など。

(和田委員長) 近隣大学とあるが、新潟大学や新潟工科大学など工科系の大学はまだあるのに「長岡技術科学大学大学院」だけ個別に言及するのはどうかと思うので、書き方を考えてもらいたい。

(清水(善)委員) 「主な実績」となっているので書き方をもう少し考えたほうが良いと思う。

(山口委員) 長岡技術科学大学大学院は他大学から受け入れているが、編入学のことを言っているのか。大学院なので卒業した後のことかどうか、確認が必要である。

(小林行政課長) 確認させていただく。

(和田委員長) 次に、2、研究に関する目標を達成するための措置、(1)、地域発展に資する研究の推進について、こちらはB評定でよろしいか。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、(2)、地域企業等と連携した研究の実施について、この項目は「地域企業」であるが、実績は「市民に対して」で再掲されている。このセミナーが企業向けの内容になっているか分からないが、A評定で良いか。

(清水(希)委員) 先ほど理事長に「知的ものづくりセミナー」の内容確認をした際、「市民向けというより企業向けになっている」といった回

答があったので私も混乱している。

(和田委員長) 専門的なものではなく、子供や市民に対して広く浅くという感じに捉えていたが、この項目にある企業との本格的な作業支援とかではないような気がするがどうか。

(山口委員) 知的ものづくりセミナー4回、サイエンスフェスタ1回とある。理事長は教員の自己紹介を含めた内容と言っていたので、研究に近いセミナーだと受け止めている。そういった詳細の記載がないので判断しにくい。

(清水(善)委員) パンフレットを見た中では、市民の中には中小企業の方々も含まれていて、共同研究や試作研究の呼び水になる、きっかけにもなるだろうと思っていた。この「市民」には企業も含まれていると考えている。

(清水(希)委員) 「市民や企業に対して」と記載すればいい。

(清水(善)委員) 言い回しを変えたほうがよい。

(和田委員長) 子供向けのセミナーと誤解されないように、文言を変えてもらおうと良い。

「教員が地域企業を訪問し」と計画では記載されているが、実績を見ると訪問をしたという記載がない。間接的にやったということ。

次に、(1)、外部資金の獲得について

(山口委員) 私はここをA評定にするつもりでいる。11人の教員が16件の申請をしている。中期計画を見るとそういった予算はゼロとなっているにも関わらず、目標値を上回っている。あくまでも計画に対する評定としてである。

(和田委員長) 次に、3、地域貢献に関する目標を達成するための措置、(1)、地域企業との連携推進について、先ほどの知的ものづくりセミナーの再掲となるが、A評定で良いか。

(山口委員) 目標が2回以上となっていて、5回実施しているという点ではA評定となる。

(清水(希)委員) 毎回70人ほど参加していることや、三条商工会議所と連携しているといったところはプラス要因になるのではないか。

(和田委員長) A評定の理由として、他の団体とタイアップして実施しているというようなことを加えてもらえると良い。

次に、(1)、地域の学校等との連携活動の推進について、消防団を結成したこと、学生の地域活動への参加は良いと思うので、このA評定は当然だと思っている。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、4、国際交流に関する目標を達成するための措置、(1)、留学生等の受入れについて

—意見なし—

(和田委員長) 次に、(2)、国外大学等との連携について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、業務運営の改善及び効率化に関する事項、1、運営体制の改善に関する目標を達成するための措置について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、2、教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置について、外部評価や教員評価について理事長に質問したが、今の段階ではB評定で良いと思うが。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、3、人事の適正化に関する目標を達成するための措置について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、4、事務の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置について、2点目の文言について、「事務処理の徹底により事務の効率化を図った」とあるが意味が分からない。事務処理の徹底は当たり前のこと、当たり前のことをして事務の効率化を図ったということか。

また、「プロジェクトチームを設置し、業務の効率化を図った」とあるが、プロジェクトチームを作ると効率化が図られるのか。「プロジェクトチームを設置し何々をして、業務の効率化を図った」になるのではないか。

詳細の記載がないので具体的に何をしたかは分からないが、誤解を招かない表現にすべき。

次に、財務内容の改善に関する事項、1、自己収入の確保に関する目標を達成するための措置、(1)、学生納付金の確保について、倍率が下がってきていると聞いているので少し心配しているが、国公立の平均倍率が3倍のところ、この大学は5倍となっている。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、(1)、外部研究資金等の獲得促進について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、2、経費の節減に関する目標を達成するための措置の文言について、「経費執行に当たっての確認の徹底により、経費抑制に努めた」とあるが意味が分からない。経費執行時に支出すべきことか否かを確認したのだと思うが、それは当たり前のこと。もう少し違う表現があるのではないか。当たり前ができていないという誤解を招かないように記載すべき。

次に、3、資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項、1、自己点検・評価に関する目標を達成するための措置について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、2、情報公開の推進に関する目標を達成するため

の措置について、自己点検評価等をホームページで公開することになっているが、外部評価はまだ準備段階なので公表されていない。おそらく計画の立て方に問題があったのではないかと思う。そうったところが曖昧だがB評定で良いか。

—意見なし—

(和田委員長) 次に、その他業務運営に関する事項、1、施設設備の整備、活用に関する目標を達成するための措置について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、2、安全管理に関する目標を達成するための措置について

—意見なし—

(和田委員長) 次に、3、法令順守等に関する目標を達成するための措置について、現在のところ規程の整備で手一杯、研修はまだ行っていないと思うので、そういった文言に変えるべき。

また、あくまで計画のためそのものズバリを達成する必要はないと思うが、本当に計画を実施したのかと問われたときのため、そういったところをぼかすような書き方をしたほうが良いのではないかと思う。

—意見なし—

(和田委員長) 以上で意見交換を終了するが、何か言い残しはないか。

(清水(善)委員) 開学後1年目ということで評価が難しい。令和4年度評価からはもう少し分かりやすくできるのではないかと思う。

また、マルシェの参加が評価のポイントになっていたが、市立大学が運営主体となって技術やサイエンスを産学連携を含めて、大学が提供できるマルシェを運営するとA評定につながる活動が増えるのではないかと感じた。

教授の研究費獲得のため、リレーセミナーだけではなく教員が実際に企業などを訪問していただきたいと思った。

入学については、かなりいい成績になっていると思う。三条市の予算を使ってということであれば市内学生の割合を考えなければならないと思うが、新設大学という意味ではこれだけの実績を上げているので、全体評価はA評定だと感じている。

(和田委員長) 各委員は評価シートを作成して事務局に送信し、それを事務局から取りまとめてもらう。

第2回目の委員会日程について、事務局から説明を願う。

(小林行政課長) 8月17日水曜日午後でいかがか。

—異議なし—

(和田委員長) それでは8月17日水曜日午後で、時間は事務局が調整してお知らせする。

また、事務局が調整する評価書原案は私が責任を持って確認することによろしいか。

—全員賛成—

(和田委員長) 委員長からは以上となる。

次第7 閉会